一又
すへ此ここうやれしてふここ
きこゑあおうちやへ座あさい
きこゑかれしけやよかわかる
ふくにちよられ

一又
もゝむあおつも座へ座
きこゑあおうちやへ座なさい
きよかまているもり

一又
こゝむあおつちやへ座
萬ち恵あおうちやへ座千萬れ
もちよるおきやかくもい
ちよかけてふさしちられ

又
もゝむくふもつもか千萬れ

一
もちよるおきやへかくしやす
きこゑあおうちやくかいけふ

六

あかゝるて志より、ゑらり
おれるちへかくらせちあち
おそいよるお座せ
又 そてむあおつきや へ座なり
きこみおれかるて佛こま
一 ゑ正おもろち へ
きこゑあおつきやつとす へ

そめておもろち へ つちかゝるよ
ゑいよかけす へ らおやせ
又 そてむくふりうや佛せ
そめておれるち へ
一 あおるやつ ふかうやれ てゝみこ
けちてるおうやの てゝみこ
又 せくかゝかうやれ てゝみこ

一（三）
いんところおそやれ
きこゑあおりやへかけさ
よりやまさりてちよわり
ともゝちへけおれうち
まちよるちへそてかま
又　そてむくふまさこやむか
よるまや浦ゝり浦たまとるま

ともゝちへけおれちふ
まちよるちへそてかま

（二三）
一 きこゑさすかさこのもくさ
ちゑられあちおそいおれちよま
又 さり百あちふおまされ
又 そてむさすかさの
又 きこゑあちおそいの
（二四）
一 きこゑさすかさゝいしま
うちあんし おそいやたりゆ

よのくささまへ
又 ちとせむさすかさこの
又 おかけはおつちへ風ちふを
一（三四）あかりやつふし
首里とりまふらふ
きここゑさすかさかおきて
いろりよろれく寸ゑまてて
まくさちへちよろれ

又 そとむさすかさこの
又 志ちりこそりくすく
又 まく浦そりくすく
一（三五）あかりやつふし
きここゑさすかさこの
そとむ大さこやり
志まそろへ風りこゑやせ
又 ともむさすかさこう

又 ゑそりゑそりいのろふ
又 まころ満ゑりいれらよ
又 きこへあちおそいや
又 そてむあんしおそいや
又 京おまころあちおそい
（二六）あかゝやんふし
ふたまころあちおそい
一 きこゑらすかさこの
そてむ大きやらすかさ
すふさいきていまふろ
又 そてむらすかさこの
（二七）たかゝのきみふし
一 きこゑらすかさよそいて
さにしてちのうちき
又 そてむらすかさよそいり
ゑりくすくまゆりくすく

（二八）

一 きこゑ大きみか さこの
せちあらしそ たふみなよ
又 とよむせたか さこの
又 くめすすふきやせ
又 うきとふきこれたる

（二九）

一 きこゑ大きみ さこの
ゑけせい やりよる

又 もゝむさすか さか
又 しま中の よろいきこゑ
ゆさのきもそろい

（三〇）

一 きこゑ大すか さこの きこ
かこりふう 國うちよせま
又 さよむせたか さこの
又 首里もりぐすく まもる城

（三一）
一 きこへさすかさかひやしれ
はらうたそきてかれしけさ
又 てむさすかさか
又 あてもりもりくすく
又 まきまきもりくすく

（三二）
一 きこゑさすかさうそ
ちるあやこ

又 そむさすかさこの

（三三）
又 とりおとちやくさたけて
一 きこへさすかさ二尾ておきも
又 ともむさすかさ

（三四）
一 きこへさすかそあまへ
こちへあそひよる
又 とよむさすかさ

又 けおのうちゑぞしあけて
こんこおりはきあけて
又 志てりとりおれうちへ
又 まこ海とりおきうちへ

(三五)
一 きこへさすかさうそりきも
くやせおきと
又 そてむさすかさうそりきも

又 志てりとりくすく
又 まこ侍もりくすく

(三六)
一 さすかささすきてかさされ
忍こゑせすはあり
又 きみのあんしあらす

(三七)
一 さすかさふすゑのひやし
めつひやしこあやせ

又 きみのあんしふ

(三八) 一 きこゑさすかゝかたふ

もゝろておきこちへ

又 とよむさすかさの

又 ゑてもりとりくすく

又 まくゆとりくすく

(三九) 一 きこゑさすかさのあすす(こゝよとこむ)

又 とよむさすかさの

又 ゑてもりとりくすく

又 まもいとりくすく

(四〇) 一 きこゑさすかさの流との

あちおそいかなしふう

くふこちよせれ

又 とよむさすかさの

(四一) 初いしまるのふし
一 きこへさすかさらあらの
たちあらいきてよ
(四二) 又 そむさす かさら
一 きこへさすかさらかんらあま
又 そむさすさか
(四三) 一 いそかさのとりよさすかさら
帰ふし あれちち

とちろゝちへあす免んかす

一 きこへさす かさか
とちろゝちへあす免くかす
おきやうすいきあちよられ
又 そむさす か さら
又 いゝゑけりあちおさい

勝之

十六

(四一) 稲いしまるのふし
一 きこへうすかさがあちの
たちあさいきてよ
又 そてむうすかさか
(四二) あわりやつふし
一 きこへうすかさかよかんとうあま（
又 そてむさすくくか
(四三) うしわそいふし
一 いそかきのとりよさすのさう
鳴ふし おれうち（

又 おやかきのとりふ
又 おろくよこけふ
(四四) あわりやつふし
一 きこへうすかさか
とろろち（あすゆくかすま（
おきやうまいゑゐちよされ
又 そてむさすかさか
又 いしゑけりあちおそい

勝之

又てるゝうさし ちゝうされ
又あそふやすへ あち おそい
いちゝうさし ちゝうされ
又かうるめの こうち ふ
きミかこうけ うつて
又あうまもり くすく
きうれゝす おれらふ

又ましゐもりくすく月の
かす おれらふ
(四五)こうおそふし
一 きこゑさすかさ おこの
ミ乃たかさ あけくもの
あさひさす やふ
又 そてむさすか さこう
(四六)あおりやへふし
一 きうりもり ちよるる

きこゑあち おそいや
ひやくさのちいのて おやせ
又 まみそりくすく
（四七）
一 きこゑうすかさこ
又 いるこふかって
又 とよむうすかさか
てたかあふかって

（四八）あおりやへふし
一 きこゑうすか さこ
けおのうらゑ おしあけて
あまりそり おれちへ
きこゑきやこかす すへ
又 天はきふさおやせ
又 とよむ たゝみきやから
ゆゑはき あけて

30

又 まつ風とりおれつちへ
又 年こそせふるさやめ
志てりとりおもかしや
又 もしやこせふるさやめ
まつ風とりおあらしや
又 志つ宮とりゆけふせる
てふ浪この

又 まつ風とり志てさふせる
みてるかそこのあつやみてるおそて
一 きて恋さす かさつこさうて
こやまふりまろてて
又 そても君す かさつ
一 きこへさす かさつかこへ
尾ておきこと 尾すま

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

一 又 こゝむさすかさう
きこゑへさすかさかおか
はるおもおもろへあち
おそいちよせちこうして
ちよられ

又 年六とせ ふるこやめ
きこゑて川りましこうさ
又 こゝろふさもるこやめ
こうゐあすひめ川らしや
又 あんしおそいきやおもろ
さしこゝ小おわれちへ
又 こゝのきまなふちへ

一 又こゝむさすかさら
きこゝへふすかさかおれ
ほろおもちへあち
おそいまてよせちこそて
ちよそれ
又そむ大きてこゑやかくら
ゑかそりよららへ

又年六とせふるこゝやめ
きこゝて川りまこゝさ
又こゝるふさもるこゝやめ
こゝぬあすひめ川ふしや
又あれしおさいきこゝやおまり
さこゝ小おれこちへ
又こゝのこゝ志まなふちへ

これゑゝふ おれちへ
又 てたかうし 座れて
ちゝきまり まさて
あんし おそいよ せち
こよて ちよわれ
一 (五三) ここ さすかさ はまふる
きこゑ 座れて くせ こゝろ

いろてりや あって ちゝきき
又 とよむ大ころ やさいあて
きここ居まて
又 あまりわり ちよわる
いせゑけり あち おそい
又 まころまり ちよわる
又 あゝかいるて あち おそい

又あまみやゝらあいちへミミ居れて
又しねりやゝら沢ミこミミ居れて
又てるかはゝおこちす
てるしのゝはこちす
一（五三）きこへさすかさ
うしふおきかゝて
もりものまてうせち
あんしおそいよミおやせ
又そてむミすかゝむ川き
おきふふちへ
又けおの内そおしあけて
又あるきミとりおれちへ
又ミちろ内そ沢きミあけて
まへ内ミとりおれちへ

又 あちおそいよわこてたこ
きよわこて

（五四）あち おそいよ

一 首里大きこきやそこむ
くふおそいきや國ふさて
ちよふれ

又 けおのうちふこもて
もちろ内よすでて

又 ふさいきよもいあちおそい
あさいきてよりたこきてよ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

又 あまこあちへ あらて
こきやうあちへ ふらて
又 あけまもし ふうそ
むかうそし ふうそ
又 きこてり やこちかこ
ちりいこれめ
又 けおそまふより あれや

35

三枚表四行目 おうとしるす より 二四枚表六行目 一 まで
大きミまで マデ 尚数字欠落せり

又 まるちゑの おより

てちゝてれおふ
(五五)
又 おきゝすまふゝ
あすそゝすゝいあてゝ
一 きゝる大きこさや
すゑゝひやり あれもちへ
こすべ

又 あまこあちへ あおて
こきやうあちへ おろて
又 あけまもし おろそ
むかうそし おろそ
又 きミてり りやこちかこ
ほりいこれめ
又 けおもまふよりおれや

（五五）

又 ゑゝゑゝひのかりおれや
又 よまこちゑのおより
せちよせれおあふさ
又 おきらゝす まふゝ
又 あすもゝすかいまてゝ
一 ゑゝよま大さゝこさや
す ゑゝゑゝひやゝおれちへ
こすや

きこゑや せちもち
よろいあちへ こゑおやせ
又 てすゝ国もち こゑや
ませこゑ ひやりおれこゑへ
又 あてるまりち よこる
又 こそみやすへ あちおそい
又 まくねりち てかこる

てこゝすへ あちおそい
又 こゑのまこや ふくふ
あかりそ あふらちへ
又 かころめの こうちふ
きこえてふい あふらへ
又 きこへ大 きこちよ
ゑりちよ 屋り かさちへ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

（五六）あかつかふし

一 しよるま大ここきうや
せめりのぢようおれやすむふ
ここやわまちくちよられ

又 ちよむ國おそいここや
せめのきさおれや

又 たまきてみきよもちつて
あすて

又 ここもんきようあふらちへ
おもりよけようきちへ

又 くふふさいおしそて
かつうこもりひきちへ

又 大きミふもしらうま
てるうそよのつてきまや

（五七）あかつかふし

一 しよるま大きうこきうや

首里もりおれなちへ(あちおそい)
ちよせち まさてちよ
され
又 そそむきゝてゝきや
ませ揃て おきなちへ
又 あまこうや かゝすへの
きこゑ座まそ
又 志揃りや かゝあいちへ
きこゑ座まそ
又 さしふ たころふ こま
そて寸おまてゝき
又 むりきせころよ かい
ふてす おれなれ
又 大きこきや ほさうせ

首里天尚寧王の御代

てるかそその　こて、
萬暦三拾五年ひての
年拾月十日汝ちのとの
このへきこて川りのまくかわら
こその時ふ志てより大きこの
（五八）あかりやへ
ちまへより候し
一志てちを大きこ　こや

首里ことおきこちへ
あちおそい志てよせち
まうてちちられ
又　とよむくふおそいきや
まこ満そりおれちちへ
又　あちおそいこおより
こうふ　せちおより

又 きこのかすおれうちへ
ゑゝのかすおれうちへ
又 おきてかすこまふう
あすそゝすこまふう

首里天尚敬王の御在所代

萬暦十五年亥の年十月
さいのこ川のとよそりのへせの
きこのおまへのかりかうり

めされ時ふ節

（五九） あおりやへ

一 きこへせんきこきや
ありきよおれふきて
あさいきよわいもりう
かせせちまさてちよわれ
又 とよむきこそこかこきや
いけふおれふふちへ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

又 こゝとん内のまうやよ
あをてふふんかゝき
又 かゝらめのまうやふ
わこてふうちへかゝき
又 さしふあころふおき
又 ふうちへかゝき
又 む川きせころ よこまふて与

おまてれ
又 きてみをゝとりちゝらあか
ふさいきよらてう世せす為
ふうくせちまゝてちゝされ
又 ま?清ゝとりちよされあゝ
ふさいきよゝそうみせ
萬暦卅四年 ひつしの年